



ページ	修正内容																																																																					
P 241 図9-2-35	<p style="text-align: right;">(単位: mm)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>定着具の種類</th> <th>緊張ジャッキの種類</th> <th>φa</th> <th>φb</th> <th>c</th> <th>d</th> <th>e</th> <th>f</th> <th>g</th> <th>h</th> <th>L1</th> <th>L2</th> <th>L3</th> <th>L4</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>12E-TC15</td> <td>TC-260-250型</td> <td>290</td> <td>335</td> <td>254</td> <td>530</td> <td>18</td> <td>520</td> <td>312</td> <td>208</td> <td>929</td> <td>1179</td> <td>756</td> <td>≒2 000</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">19E-TC15</td> <td>TC-410-250型</td> <td>347</td> <td>425</td> <td>329</td> <td>530</td> <td>19</td> <td>495</td> <td>282</td> <td>213</td> <td>1027</td> <td>1277</td> <td>873</td> <td>≒2 500</td> </tr> <tr> <td>TC-410-300型</td> <td>347</td> <td>425</td> <td>307</td> <td>614</td> <td>19</td> <td>550</td> <td>298</td> <td>257</td> <td>1077</td> <td>1377</td> <td>923</td> <td>≒2 500</td> </tr> <tr> <td>27E-TC15</td> <td>TC-600-250型</td> <td>400</td> <td>525</td> <td>305</td> <td>570</td> <td>80</td> <td>720</td> <td>457.5</td> <td>262.5</td> <td>1048</td> <td>1298</td> <td>930</td> <td>≒2 000</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ TC-260-250型, TC-410-250型, TC-410-300型には緊張ジャッキ先端リングの長さも含まれています。</p> <p style="text-align: center;">図9-2-35 緊張に要する空間</p>	定着具の種類	緊張ジャッキの種類	φa	φb	c	d	e	f	g	h	L1	L2	L3	L4	12E-TC15	TC-260-250型	290	335	254	530	18	520	312	208	929	1179	756	≒2 000	19E-TC15	TC-410-250型	347	425	329	530	19	495	282	213	1027	1277	873	≒2 500	TC-410-300型	347	425	307	614	19	550	298	257	1077	1377	923	≒2 500	27E-TC15	TC-600-250型	400	525	305	570	80	720	457.5	262.5	1048	1298	930	≒2 000
定着具の種類	緊張ジャッキの種類	φa	φb	c	d	e	f	g	h	L1	L2	L3	L4																																																									
12E-TC15	TC-260-250型	290	335	254	530	18	520	312	208	929	1179	756	≒2 000																																																									
19E-TC15	TC-410-250型	347	425	329	530	19	495	282	213	1027	1277	873	≒2 500																																																									
	TC-410-300型	347	425	307	614	19	550	298	257	1077	1377	923	≒2 500																																																									
27E-TC15	TC-600-250型	400	525	305	570	80	720	457.5	262.5	1048	1298	930	≒2 000																																																									
P 294他	<p>D10(SD295A) → D10(SD295A以上) 11章・12章に掲載されているD10はすべて同上</p>																																																																					
P 322 P 425	<p><del>(5) 国土交通省新技術情報提供システム (NETIS) に登録された定着具である。(登録番号</del> <del>KT-110046-A)</del> シングルストランド定着具Eco's NETIS掲載期間終了</p>																																																																					
P 325 図12-7	<table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>部品名</th> <th>形状寸法 (mm)</th> <th>材質</th> <th>数量</th> <th>質量 (kg)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="8">供給部品</td> <td>① ウェッジ</td> <td>L=75</td> <td>SCM415H</td> <td>1</td> <td rowspan="2">1.7</td> </tr> <tr> <td>② スリーブ</td> <td>φ65×75</td> <td>S55C</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>③ エコプレート</td> <td>φ130×126×29</td> <td>FCD450</td> <td>1</td> <td>1.4</td> </tr> <tr> <td>④ エコキャップ</td> <td>φ74×118</td> <td>HDPE</td> <td>1</td> <td>1.4</td> </tr> <tr> <td>⑤ 半割PE ブッシュ</td> <td>L=28</td> <td>HDPE</td> <td>1</td> <td>0.04</td> </tr> <tr> <td>⑥ コーンジョイント (取付ボルト付)</td> <td>φ65×150</td> <td>SPCC</td> <td>1</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>⑦ 型枠取付ボルト</td> <td>M4×65</td> <td>SUS</td> <td>2</td> <td>0.17</td> </tr> <tr> <td>⑨ 補強リング</td> <td>φ90×65</td> <td>PA</td> <td>1</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>現場手配品</td> <td>⑧ 定着具筋 (グリッド筋)</td> <td>φ9-95×201</td> <td>SR235</td> <td>1組</td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>	分類	部品名	形状寸法 (mm)	材質	数量	質量 (kg)	供給部品	① ウェッジ	L=75	SCM415H	1	1.7	② スリーブ	φ65×75	S55C	1	③ エコプレート	φ130×126×29	FCD450	1	1.4	④ エコキャップ	φ74×118	HDPE	1	1.4	⑤ 半割PE ブッシュ	L=28	HDPE	1	0.04	⑥ コーンジョイント (取付ボルト付)	φ65×150	SPCC	1	—	⑦ 型枠取付ボルト	M4×65	SUS	2	0.17	⑨ 補強リング	φ90×65	PA	1	—	現場手配品	⑧ 定着具筋 (グリッド筋)	φ9-95×201	SR235	1組	—																	
分類	部品名	形状寸法 (mm)	材質	数量	質量 (kg)																																																																	
供給部品	① ウェッジ	L=75	SCM415H	1	1.7																																																																	
	② スリーブ	φ65×75	S55C	1																																																																		
	③ エコプレート	φ130×126×29	FCD450	1	1.4																																																																	
	④ エコキャップ	φ74×118	HDPE	1	1.4																																																																	
	⑤ 半割PE ブッシュ	L=28	HDPE	1	0.04																																																																	
	⑥ コーンジョイント (取付ボルト付)	φ65×150	SPCC	1	—																																																																	
	⑦ 型枠取付ボルト	M4×65	SUS	2	0.17																																																																	
	⑨ 補強リング	φ90×65	PA	1	—																																																																	
現場手配品	⑧ 定着具筋 (グリッド筋)	φ9-95×201	SR235	1組	—																																																																	
P 365 図13-30	<p>補強鉄筋の必要な長さ L = (1.5 × 最小線短距離 + 鉄筋の定着長※) 以上 ※鉄筋の定着長については各基準書を参照する。</p>																																																																					
P 407 図17-5-2	<p style="text-align: right;">※ 試験用に形状変更も可能です。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>分類</th> <th>部品名</th> <th>形状寸法</th> <th>材質</th> <th>数量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="5">供給部品</td> <td>① 定着ブロック</td> <td>φ90×60</td> <td>SCM435</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>② ウェッジ</td> <td>φ16×30</td> <td>SCM415H</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>③ 支圧板</td> <td>□165×32</td> <td>SS400</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>④ トランペット</td> <td>φ89×190</td> <td>SPCC</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>⑤ グラウトキャップ</td> <td>□120×85</td> <td>SS400</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">現場手配品</td> <td>⑥ 型枠取付ボルト</td> <td>M5×65 (P1.25)</td> <td>—</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>⑦ 定着具筋 (グリッド筋)</td> <td>φ9-138×270</td> <td>SR235</td> <td>1組</td> </tr> </tbody> </table> <p>※定着具の材質は、材料の流通上入手困難となった時などは、これと同等の性質を有する他の材料に変更する場合があります。 ※定着具筋 (グリッド筋) は、φ9の代わりにD10 (SD295A以上) を使用してもよい。</p>	分類	部品名	形状寸法	材質	数量	供給部品	① 定着ブロック	φ90×60	SCM435	1	② ウェッジ	φ16×30	SCM415H	12	③ 支圧板	□165×32	SS400	1	④ トランペット	φ89×190	SPCC	1	⑤ グラウトキャップ	□120×85	SS400	1	現場手配品	⑥ 型枠取付ボルト	M5×65 (P1.25)	—	4	⑦ 定着具筋 (グリッド筋)	φ9-138×270	SR235	1組																																		
分類	部品名	形状寸法	材質	数量																																																																		
供給部品	① 定着ブロック	φ90×60	SCM435	1																																																																		
	② ウェッジ	φ16×30	SCM415H	12																																																																		
	③ 支圧板	□165×32	SS400	1																																																																		
	④ トランペット	φ89×190	SPCC	1																																																																		
	⑤ グラウトキャップ	□120×85	SS400	1																																																																		
現場手配品	⑥ 型枠取付ボルト	M5×65 (P1.25)	—	4																																																																		
	⑦ 定着具筋 (グリッド筋)	φ9-138×270	SR235	1組																																																																		

施工基準の記載に変更がございました。下記をご確認下さい。  
今後も変更・訂正がありましたら随時ホームページ上でお知らせ致します。

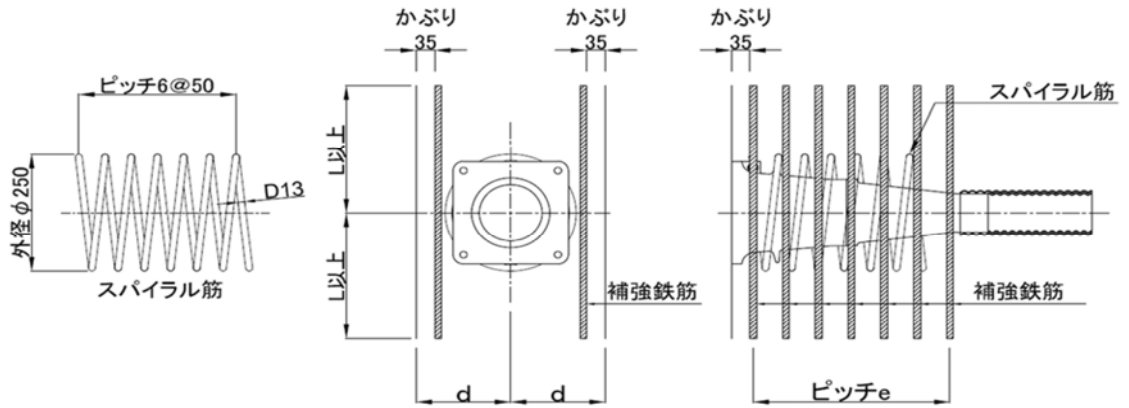
ページ	変更内容																														
P345 全て	<p><b>13-2-5 定着具の最小配置間隔と縁端距離及び緊張時のコンクリートの圧縮強度</b></p> <p>定着具の最小配置間隔及び縁端距離は、実験及び実績に基づき、図13-3 のとおり定めている。図中の記号d及びe はいずれも定着具の中心から部材端までの距離を示す。部材の隅角部においては、一方をd としたならば他方はe とする必要があるが、方向性はない。なお、ここで示す縁端距離は35mm のかぶりを想定している。したがって、耐久性の観点からこれ以上にかぶりを確保する必要がある場合には、このかぶりの差を考慮し、図13-3 に示す縁端距離を増して設計する必要がある。例えば、かぶりが70mm の場合の縁端距離は、<math>180+35=215\text{mm}</math> となる。また、緊張時のコンクリート圧縮強度は <math>27\text{N/mm}^2</math> 以上とする。</p> <p>下記配置以外についてはFKKにご相談ください。</p> <div data-bbox="574 672 1133 1097" style="text-align: center;"> <p>d=最小縁端距離 D=最小配置間隔</p> </div> <p>図 13-3-1 定着具の最小縁端距離と最小配置間隔</p> <table border="1" data-bbox="383 1232 1340 1433"> <thead> <tr> <th>かぶり (mm)</th> <th>緊張してよい時のコンクリート圧縮強度 (<math>\text{N/mm}^2</math>)</th> <th>d (mm)</th> <th>e (mm)</th> <th>D (mm)</th> <th>13-2-6に示す補強方法との組み合わせ (図13-4-1と図13-4-2参照)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>35</td> <td>27以上</td> <td>180</td> <td>250</td> <td>270</td> <td>S1</td> </tr> <tr> <td>35</td> <td>27以上</td> <td>200</td> <td>200</td> <td>270</td> <td>S2</td> </tr> <tr> <td>35</td> <td>40以上</td> <td>175</td> <td>175</td> <td>270</td> <td>S3</td> </tr> <tr> <td>35</td> <td>27以上</td> <td>180</td> <td>270</td> <td>270</td> <td>G1</td> </tr> </tbody> </table> <p>※ここに示す値以上にかぶりを確保しなければならない場合、その差の分だけ縁端距離を増やさなければならない。</p> <p>図 13-3-2 定着具の最小配置間隔と縁端距離 (スパイラル筋を使用する場合)</p> <p style="text-align: right;">次ページへ</p>	かぶり (mm)	緊張してよい時のコンクリート圧縮強度 ( $\text{N/mm}^2$ )	d (mm)	e (mm)	D (mm)	13-2-6に示す補強方法との組み合わせ (図13-4-1と図13-4-2参照)	35	27以上	180	250	270	S1	35	27以上	200	200	270	S2	35	40以上	175	175	270	S3	35	27以上	180	270	270	G1
かぶり (mm)	緊張してよい時のコンクリート圧縮強度 ( $\text{N/mm}^2$ )	d (mm)	e (mm)	D (mm)	13-2-6に示す補強方法との組み合わせ (図13-4-1と図13-4-2参照)																										
35	27以上	180	250	270	S1																										
35	27以上	200	200	270	S2																										
35	40以上	175	175	270	S3																										
35	27以上	180	270	270	G1																										

P345  
続き

13-2-6 定着具筋及び定着部付近の補強鉄筋

定着具筋及び定着部付近の補強鉄筋は、図13-4-1に示す通りに配置するものとする。ただし、既に配置されている鉄筋によってその配置が困難であると判断された場合には、既存の鉄筋の径を上げるなどして、その鉄筋量を補う方法としても良い。また、プレストレスの導入に伴う割裂応力に対して、コンクリート部材の形状や強度、定着具の配置などを考慮し検討を行い、既存の鉄筋が図13-4-2に示す補強鉄筋以上に配置されていて、その耐力に余裕がある場合には、これにより代用することも可能である。多数の定着具を同一平面上に定着する必要がある場合には、周辺を含む全体構造系として解析し、適切な補強を行うことが必要である。なお鉄筋の材質はSD295A以上とする。

(1) 定着具筋にスパイラル筋を使用する場合



補強鉄筋の必要な長さ  
 $L = (1.5 \times \text{最少縁端距離} + \text{鉄筋の定着長} \ast)$  以上  
 ※鉄筋の定着長については各基準書を参照する。

(単位: mm)

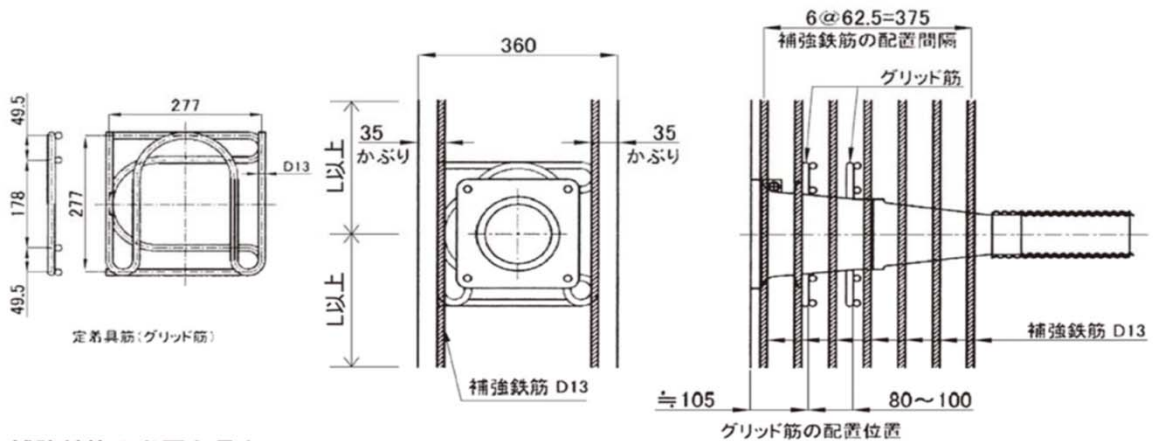
補強方法の記号	かぶり	緊張時のコンクリート圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )	最少縁端距離 d	定着具筋(スパイラル筋)			補強鉄筋	
				鉄筋径	外径	ピッチ	鉄筋径	ピッチ e
S1	35	27以上	180	D13	250	6@50	D13	6@62.5
S2	35	27以上	200	D13	250	6@50	D13	6@62.5
S3	35	40以上	175	D13	250	6@50	D13	5@62.5

※ここに示す値以上にかぶりを確保しなければならない場合、その差の分だけ縁端距離を増やさなければならない  
 ※鉄筋の材質はSD295以上である。

※スパイラル筋を分解して製作する場合は、半周以上のラップ長を確保する。

図13-4-1 定着具筋及び周囲の補強鉄筋 (スパイラル筋を使用する場合)

(2) 定着具筋に筋をグリッドを使用する場合 (緊張時のコンクリート圧縮強度: 27N/mm<sup>2</sup>)



補強鉄筋の必要な長さ  
 $L = (1.5 \times \text{最少縁端距離} + \text{鉄筋の定着長} \ast)$  以上  
 ※鉄筋の定着長については各基準書を参照する。

図13-4-2 定着具筋及び周囲の補強鉄筋 (グリッド筋を使用する場合)